

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：32606

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01246

研究課題名(和文) デジタル化したマザリナード文書の恒久的保存・利用体制の確立に関する総合研究

研究課題名(英文) A comprehensive study on establishment of permanent preservation and utilization system of digitized document Mazarinades

研究代表者

一丸 禎子 (Ichimaru, Tadako)

学習院大学・文学部・講師

研究者番号：80567313

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：マザリナード文書とはフランス17世紀におけるフロンドの乱(1648-1653)の間に流通し、世論の形成に関わった政治的文書である。本研究は現存する6000種類の文書のデジタル化を最終目標とし、順次文書数を増やしながら、語彙検索可能なオンライン・コーパスmazarinades.orgと研究用プラットフォームを運営するものである。昨今ではデジタル化される資料が増加し、それを利用可能な状態に保つには定期的なメンテナンスが必要とされるのだが、現実には管理が難しく、せっかく作ったものが使えない状態になっていることも多い。本研究はそうした学術基盤情報の持続可能性を実現するものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

私たちの社会はますます情報のデジタル化が進み、学術研究もその環境に適応していく必要がある。本研究は日本から発信され、日仏共同で展開されている17世紀フランスの歴史的資料をデジタル化し、学術基盤情報をインターネット上のインフラとして構築するものだが、その過程で得られた知見は単一の研究分野にとどまらず、特に研究用プラットフォームの運営と維持管理の方法は今後の学術共同体のあり方を考えるための示唆に富むものである。また、マザリナード文書研究は資料体の性質から、研究には学際的な研究者の交流がかかせず、インターネット上での本研究のプラットフォーム運営は新しい学術共同体のモデルを提供するものである。

研究成果の概要(英文)：The Mazarinades are mostly political printed documents circulating during the Fronde (1648-1653), a series of civil wars in the Kingdom of France. They were involved in shaping public opinion and many of them were collected. The final goal of this research is to digitize the existing 6,000 types of documents starting with the Tokyo University collection, to publish them in an online corpus (mazarinades.org), with a public platform to search the catalog and tools for lexical data mining and distant reading. Recently, the number of digital materials has increased in many fields and a long-term maintenance is always required to avoid that the things that have been made with much effort become unusable due to a lack of interoperability or funding. Our research team on the Mazarinades creates the conditions for sustainability in a digital academic infrastructure and devised a method to value academic investment without waste.

研究分野：フランス17世紀

キーワード：マザリナード mazarinades フロンドの乱 フランス史 デジタル化 コーパス 日仏共同研究 学際的

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

マザリナード文書とは17世紀フランスの内乱、フロンドの乱(1648-1653)年の間に印刷、または手書きで流通し、世論の形成に関与したとみなされる約6000種類の文書である。フランスのみならず、海外にも流出し、多数のコレクションが存在する。本研究はこの歴史的資料の特性である量と分散の問題を解決し、学術基盤情報としてインターネットで公開することを目指している。第一段階として東京大学所蔵コレクション『マザリナード集成』をデジタル化し、オンライン・デジタルコーパスとして2011年に公開した(mazarinades.org)。このコーパスは世界に先駆けて日本で構築され、17世紀フランス語のもっとも大きな言語コーパスのひとつとして利用されている。マザリナード研究は1980年代にユベール・キャリエとクリスチャン・ジュオーによる記念碑的著作により大きく前進した。21世紀になりインターネット環境が日常となった今、資料のデジタル化が進み、知の集積形式が変化し、最新の知見は研究者だけでなく一般の方にも共有できるようになった。mazarinades.orgはインターネットで公開されている学術基盤情報の重要な一画を占め、今後の研究の発展を支える使命をもつものである。しかし、インターネットの利用で便利になる一方、YouTubeなどを通じて、不正確な「学術情報」が拡散するようにもなった。学術共同体がいかに集合知の質を担保するかということは、分野を問わず、喫緊の課題となっている。

2. 研究の目的

オンライン・デジタルコーパス mazarinades.org は2011年の公開である。10年間の技術的変革、インターネット環境に対する意識の変化は大きく、既存のデジタルコンテンツもそれに対応した変化を求められる。実際に、研究資料のデジタル化は作成すれば終わりではない。デジタル化すれば半永久的に利用できると考えられているのは誤解で、利用可能な状態を保つには定期的なメンテナンス、時には大規模な工事が必要になる。それには当然コストもかかるのである。本研究の目的は mazarinades.org のようにデジタル化された資料を恒久的に利用できるようにするにはどのようなシステムをその周囲に構築すればいいのかを考えることにある。換言すれば、デジタル化された学術基盤情報を自律的に半永久的に存続させるエコシステムの創造である。それは学術への投資をより有効に次世代につなげるための方法であり、研究における持続可能性 SDGs の追求でもある。

3. 研究の方法

(1) デジタル化されたコンテンツの持続可能性を支えるのは、まず何よりもそのコンテンツの価値である。したがって、その価値の向上を図るために、学術基盤情報としての mazarinades.org の質的価値を高める。具体的にはこの言語コーパスにより多くの文書を集めることである。

(2) 次に mazarinades.org が構築されてからの10年間に起きた変化(技術的のみならず社会意識の変化)に対応するための修正や場合によっては大規模な改修工事が必要である。AI や ChatGPT など視野に入れて可能性を考察する必要があるだろう。

(3) デジタル化したマザリナード文書の利用者は、第一に研究者である。しかし、マザリナード文書の知名度は日本ではまだそれほど高いとはいえない。フロンドの乱が起きた17世紀は「ルイ大王の世紀」(ヴォルテール)と呼ばれ、ルイ14世とヴェルサイユ宮殿と古典主義の大作家に注目が集まり、絶対王政確立直前のフロンドの乱の時代は盲点となっている。マザリナード文書は「言葉のフロンド」(クリスチャン・ジュオー)とも言われるように、印刷術を駆使した言論の戦いであり、フロンドの乱の際の発言の集合である。この資料体の言語の多様性は17世紀という時代だけでなく、現代のSNS上で起きているコミュニケーションの解明にも役立つ。研究者の注意を引くためには定期的な発表の機会をつくる必要がある。2015年に日仏共同で開催したように国際学会をオーガナイズする。

(4) マザリナード文書はその内容の多様性から、研究者どうしの学際的交流が必須の分野である。研究者が専門分野の学会の境界を飛び越えて協力し合えるようにすることが mazarinades.org の維持にもつながっていく。日仏共同で新しい研究者共同体を組織し、研究活動を支える方法を考える

(5) 最後は特に日本の国民と日本の学術への還元を視野に入れ、日本語による研究成果の発表を行う。本研究グループは、2016年に日本で初めてのマザリナード文書研究に関する国際シンポジウムを行った。同時に、東京大学コレクション『マザリナード集成』44巻を公開したマザリナード文書の展示会を東京大学駒場博物館で行った実績がある。後者の入館者数は3717名で、この数字はそれまで一部の研究者にしか知られていなかったマザリナード文書を実際に目にした人の数である。専門家による国際シンポジウムの発表(フランス語)を日本語に翻訳して出版し、つぎにこの展示会の展示構成をもとに一般の人にもわかりやすいようにマザリナード文書に関する入門編を執筆する。

4. 研究成果

(1) 東京大学コレクション『マザリナード集成』2700点(重複を若干含む)に加え、本研究と連携しているフランスのポルドー市立図書館とエクサンプロヴァンスのメジャーヌ図書館から、それぞれが所蔵するマザリナード文書のデジタル画像データ(ポルドー102点、メジャーヌ143点)の提供を受け、それらを手作業でテキストデータ(XML-TEI形式)に書き換えた。手作業になるのは、マザリナード文書の物理的状態がOCRによる機械的読み取りに適さないためである。これらの文書はmazarinades.org本体の基盤強化後にコーパスに加え、公開する予定である。一方、すでにフランス国立図書館(BnF)、マザラン図書館はじめ大きなコレクションを所蔵しているところだけでなく、フランスの地方のマザリナード文書のコレクションを掘り起こすこともおこなった。ポルドー公文書館、アンジェ市、ナント市、ヴァンヌ市などの公共図書館が調査の対象になった。

(2) オープンアクセス化の加速にあわせ、mazarinades.orgで公開されているマザリナード文書を一編ずつダウンロードできるように準備した(2011年の公開当初は『マザリナード集成』の所有者である東京大学総合図書館が二次利用に制限をかけていたため、連動して本研究グループも一括ダウンロードができない仕様になっていた)

(3) すでに2016年から準備を始めていたマザリナード文書研究の国際学会を2022年9月にフランスのルーアン大学で開催した。この学会は2020年に開催予定だったが、本研究グループはフランスの研究者と合同で学術委員会と査読委員会を組織し、プログラムも用意されていたが、パンデミックの影響でたびたび延期せざるをえなかったものである。対面と遠隔配信をつかった新しい開催方法を採用した。前回同様に、学術委員会が学会のテーマを決め(今回は「マザリナード文書と領域」)、査読委員会により応募者から23名とターブル・ロンドの発表者が選ばれた。この中には前回2016年の国際学会のときにフランスの学生だった人たちの博士論文も含まれる。その意味で研究者共同体の次世代も育ちつつあることがわかった。次に予定されている2025年のスイス(フリブル大学)における国際学会は彼(女)らが支えることになるだろう。

(4) 上記の国際学会を機会にマザリナード文書研究を支える新しい研究者共同体のあり方が検討され、従来の学会とは異なる形式の組織を立ち上げることになった。マザリナード研究に関する学際研究のための団体(GRIM)である。日本からは本研究グループ、フランスからはルーアン大学、ポルドー大学、海外からはコーネル大学(アメリカ)、ケベック大学(カナダ)、トリノ大学(イタリア)、フランス国立図書館BnF、マザラン図書館の研究者が立ち上げに参加し、国際的な協力関係を約束した。この研究組織はマザリナード文書のみにとどまらず、フランス旧制度下の政治文書を対象にし、デジタル化に対応する。今後の活動はルーアン大学の歴史学部門研究グループGRHisと連携してやっていく。今後はトリノ大学など、フランス以外のコレクションも調査対象に含まれることになるだろう。

(5) マザリナード文書研究は東京大学コレクションのデジタル化をきっかけに日本から発信され、フランスと共同で展開しているのだが、日本ではその活動が可視化されにくい。そこで2016年に日本で開催された国際シンポジウム(使用言語フランス語)の論文を日本語に翻訳した(『マザリナード探求』2021年)。この書籍を2カ国語で出版した理由は、マザリナード文書研究に使われる学術語の統一をはかるためである。2カ国語であるためフランス国立図書館(BnF)にも納本されており、この研究分野における日本のプレゼンスを担保することになった。

『マザリナード探求』は最初から紙と電子書籍の両方で構想され、紙の本は大学図書館を中心に献本した。この出版がひじょうに専門的な内容であるため、ひろく一般の人にも興味をもたれるように、『フロンドの乱とマザリナード-東京大学駒場博物館展覧会の記録』を出版した(2023年)。この本はまだ電子書籍化していないが、これらの2冊から得る収益は次に述べる日本語サイトの維持管理費に充当される。後者はとりわけ日本語で読めるフロンドの乱の歴史だけでなく、研究史など多角的アプローチをしているので、初学者にも読みやすくなっている。これらの出版は研究グループ「マザリナード・プロジェクト」を出版の母体としており、mazarinades.orgの生み出す研究成果を可視化すると同時に収益化する実験として行われた。これらの活動を総合的に紹介する日本語サイトmazarinades.jpの運営を同時に開始した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 一丸禎子
2. 発表標題 Web時代のマザリナード文書－日仏共同研究プロジェクトの構想－
3. 学会等名 日仏図書館情報学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松村剛
2. 発表標題 Sur quelques mazarinades en proverbes
3. 学会等名 Mazarinades et Territoires（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Patrick Reboilar
2. 発表標題 De la fouille textuelle a la cartographie des mazarinades, l'exemple du LETSAJ
3. 学会等名 Mazarinades et Territoires（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 一丸禎子
2. 発表標題 En tirant le fil du Japon dans les mazarinades...
3. 学会等名 Mazarinades et Territoires（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 一丸禎子他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 樹村房	5. 総ページ数 234
3. 書名 書物史の日仏文化交流	

1. 著者名 松村剛他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 マザリナードプロジェクト	5. 総ページ数 193
3. 書名 マザリナード探求	

1. 著者名 一丸禎子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 マザリナード・プロジェクト	5. 総ページ数 167
3. 書名 フロンドの乱とマザリナード	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Recherches internationales sur les Mazarinades (RIM)
<http://mazarinades.org/>
 マザリナード国際共同研究サイト
<http://mazarinades.net/>
 マザリナード・プロジェクト
<http://mazarinades.jp/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松村 剛 (Matsumura Takeshi) (00229535)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	志々見 剛 (Shishimi Tsuyoshi) (40738069)	学習院大学・文学部・准教授 (32606)	
研究分担者	Patrick Rebollar (Rebollar Patrick) (50329744)	南山大学・外国語学部・教授 (33917)	
研究分担者	Mare Thierry (Mare Thierry) (60188654)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Mazarinades et Territoires	開催年 2022年～2022年
--------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フランス	フランス国立図書館 (BnF)	フランス国立マザラン図書館	ルーアン大学	他4機関
イタリア	トリノ大学			
米国	コーネル大学			
カナダ	ケベック大学			